



下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

◇施工の前に

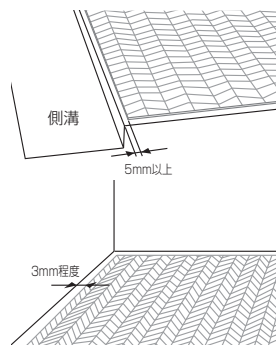
- 建築基準法施行令にて、スロープの勾配は最大1/8までと規定されています。1/8を超えるスロープへの施工はやめてください。(バリアフリー新法など、建築物によって、勾配についての関係法令、基準は違います。勾配については設計者にご確認ください。)
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

1.下地・使用環境の確認

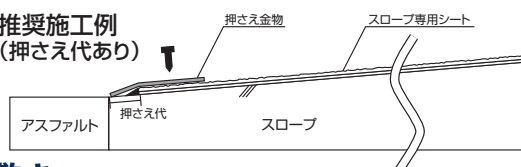
- 下地の清掃を行い、砂・塵埃などを除去してください。
- 下地の表面が平滑で十分な強度があること、塗料や油分などの汚れが残っていないことを確認してください。
- 下地に湿気がある場合は十分に乾燥するまで養生してください。(必要に応じて下地の水分率を確認してください。)
- 施工開始から養生終了までの間に5℃以下(気温・下地)になる場合や、急激な温度変化や水濡れがある場合は施工できません。**

2.割り付け

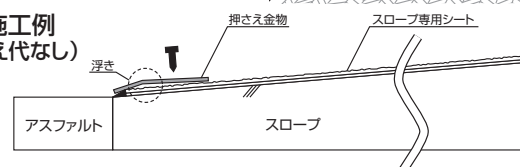
- 防滑性と排水性に特化したエンボス設計となっております。シートの方向に注意してください。**
(シート裏面の矢印の向きがスロープの上から下に向かうように施工してください。)
- できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。
- 端部は端部処理材の仕上げ代として側溝端部から5mm以上、壁際は3mm程度の隙間を空けてください。
- 接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などで付けてください。
- ※スロープの下端部分のシートは、押さえ代としてスロープの終点から10～15mm程度の隙間を設けてください。押さえ金物はスロープの終点と端部を揃えてください。下図参照。(押さえ代を設けずに施工を行うと、押さえ金物が持ち上がり、シートに浮きが生じる原因になります。)
- ※スロープの下がアスファルトなど弱い下地の場合はその部分に金物がかからないようにお願いします。
- ※金物サイズ推奨例：幅35mm以上、高さ2.6mm以上、厚み1.0～2.0mm。



○推奨施工例 (押さえ代あり)

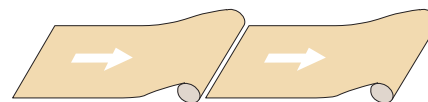


✕悪い施工例 (押さえ代なし)

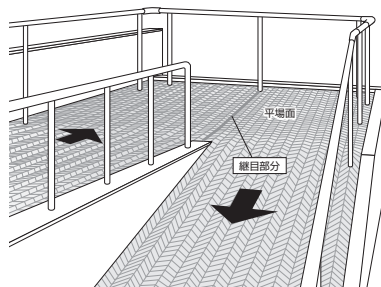


3.仮敷き

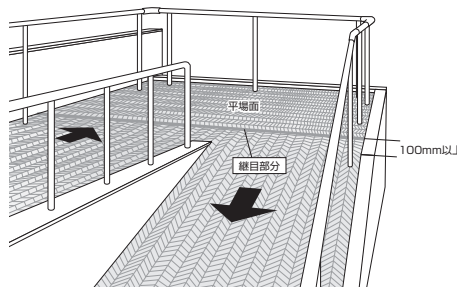
- 張り付け基準線に沿って、仮敷きを行ってください。
- シートには方向性があります。同一方向になるように施工してください。**
- 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。
- できるだけ柄合わせを行いながらシートを敷いてください。
- 二枚のシートの継目部は突き付けとし、隙間が生じないように注意してください。
- 継目は柄模様の目地部で行うのが基本です。
- 踊り場のあるスロープでは、基本的には次のような施工方法を推奨いたします。
 (ただし、スロープの形状によってはこの限りではありません。)



○推奨施工例①



○推奨施工例②

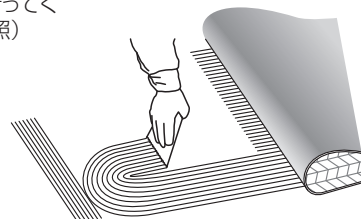


- 防滑性と排水性に特化したエンボス設計となっております。シートの方向に注意してください。**
(シート裏面の矢印の向きがスロープの上から下に向かうように施工してください。)

- 踊り場のあるスロープでのシート同士の継目処理は、平地面で行うか、押さえ金物で施工を行ってください。(平地面は接着強度確保のため100mm程度設けてください。10.継目処理手順参照)

4.接着剤の塗布準備

- 下地に接着剤を塗布するため、タキストロンの半分(幅方向)をずれないように折り返してください。



5.接着剤の塗布

- エポキシ系接着剤の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。
 (下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。
- クシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

標準塗布量

モルタル下地：300～400g/m²
 非吸水性下地：250～350g/m²

6.オープンタイム

- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内にシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。
- オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾き過ぎると、接着力が低下します。**

オープンタイムの目安(20℃)

接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20～30分	40～50分
タキボンド#701	30～40分	50～70分
タキボンド#601	30～40分	60～70分

※5℃以下(気温・下地)では使用しないでください。(硬化反応が進みません。)

7.張り付け・エア抜

- シートにシワを生じさせないように、中央部から丁寧にシートを張り付けてください。
- シート張り付け後、しごき圧着でエア抜きを十分にを行い、床ローラーや、しごき棒などで圧着してください。

8.壁際の裁断

- 壁際は3mm程度の隙間が空くように裁断してください。
- 下地に防水層がある場合は、カッターナイフ等で傷を付けないように注意してください。

9.圧着

- 壁際及び継目部をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。

10.養生(1～2日)

- 接着剤が硬化するまで1～2日養生させてから、次工程の処理を行ってください。
- 接着剤が硬化するまで、5℃以下(気温・下地)にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- 接着剤が硬化するまで、重量物の運搬やキャスター椅子などによる「しごき」を避けてください。

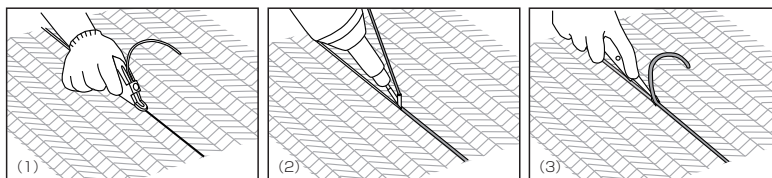
11.継目処理

- (1)接着剤が完全に硬化してから溝切り機*でシート厚みの2/3の深さでU字溝を設けてください。

※推奨:「ユーキリ・スーパー」φ2.5mm

- (2)熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら、溶接ビードができる程度に溶接してください。

- (3)タキストロン床溶接棒が冷えてから、余盛部を溶接棒トリマーなどで平滑に仕上げてください。



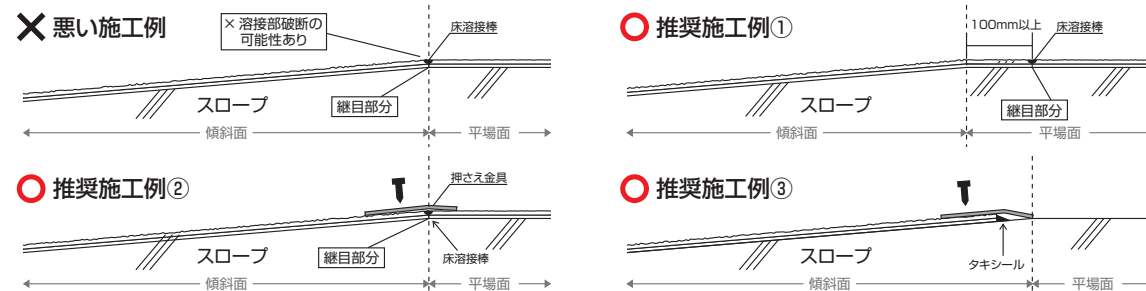
■スロープ(傾斜面)と平面面との継目処理について

傾斜面と平面面が交わる部分での継目処理は行わないで下さい。(溶接部が破断する可能性があります。)

必ず、平面面で継目処理仕上げを行ってください。

※平面面での接着面は100mm以上確保してください。

※傾斜面と平面面が交わる場所で継目処理を行わなければいけない場合は押さえ金物を使用してください。



12.端部処理

- タキストロンの全周にマスキングテープ養生し、タキシール#600の幅が5mm以上になるように仕上げ用ヘラなどで端部処理を行ってください。

- マスキングテープは仕上げ後直に取り除いてください。

※完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。

端部処理材の標準使用量

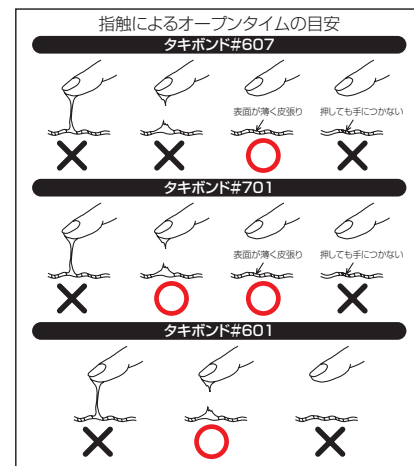
	タキシール#600
タキストロンSL	20m/本

13.清掃

- シート残材・接着剤容器・梱包紙などを片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

14.養生(2～3日)

- シール材が硬化するまで、2～3日養生させてください。
- シール材が硬化するまで、5℃以下(気温・下地)にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- シール材が硬化するまで、触ったり踏んだりしないようにしてください。(継目にシール材を使用する場合は特にご注意ください。)
- 養生中は土足での歩行を控え、汚さないようにしてください。(必要に応じて養生シートなどをご使用ください。)
- 屋内で使用する場合は換気を行い、引き渡しまでに数日期間を設ける等の配慮をしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤やシール材が硬化した後、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。



＜溶接条件の目安＞

設定	アナログ	6～7
	デジタル	400～500℃
スピード	1～2m/分	

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333